

## 4年ぶりに！Work Shop 開催

### 外国人らに日本文化紹介

IINは6月17日、日本文化を外国人たちと一緒に体験して楽しんでもらうワークショップを4年ぶりに、ローズワムで開催しました。コロナ禍は緩んで「5類」に移行したというものの、まだ不安が残るということで、従来のような日本料理、茶道などの紹介は無く規模を縮小したものの、しかし、参加したIINのメンバーたちは書道、着物、日本の遊びの3班に分かれて入念に準備し、外国人ゲストたちとともに、この日を大いに楽しみました。



着物姿で交流を楽しんだ外国人ゲストとIINのメンバーたち



慣れない手つきで書道に挑戦するゲストたち

#### 書道班

4年振りのワークショップ開催、しかも外国人ゲストも来られるとの情報に、書道担当12名は、1500年続くという日本の『書』をどうやって楽しんでいただこうかと、準備段階から活発にアイデアを出しあい、意見交換しました。日本の文化とはいえ、書道担当のメンバーも多くが「書道は小学校以来」で、久しぶりに筆を握ったり、書道の歴史や筆使い、技法等を調べ、それを分かりやすい英語に訳してみたりするのは、大変良い経験とりました。行事は、その当日はもちろん楽しいものですが、あれこれ計画しているときも本当に楽しい、

な  
で

そう実感する充実した準備時間でした。

多く方の協力で道具も揃い、「手本」も快く引き受けて下さる方があり、当日はホワイトボードに「楷書」「行書」「草書」の手本を貼り出して、書道体験開始です。

今回は30分で書道の歴史、筆の持ち方、運筆を学び、最後に色紙に好きな漢字を清書するという体験。男性は着付け準備のため15分での作業となりました。

書道を開始して驚いたのがゲストの左手が遊んでいること。左手で紙を押さえるという所作は馴染みがないのかもしれませんが。次回は姿勢の説明も端折らない方がいいようです。

筆使いに関しては「はらい」や「はね」は順調ですが、「とめ」は難しそうでした。「とめ」がきれいだと字の印象も変わりますが、30分でその感覚を掴むのはちょっと難関。運筆練習後、色紙に書く漢字の選択。今回は「友」、「和」、「愛」、「夢」の4文字から選んでもらいました。少年は迷わず「夢」。若いカップルは「愛」、そして仲睦まじくと「和」を選択。再会や交流を喜び「友」を選ぶ人も。一つに絞れず、二つの文字に挑戦する方もいて、書道体験はあっという間に終わりました。ご自身の作品と写真を撮る時間が取れなかったのが大変残念でしたが、落款を押して完成品となった作品を、書道の歴史や技法の説明プリントと共にお持ち帰り頂きました。

## 着付け班

お習字が終わったゲストから隣室に移動して、お子様には甚平さん、女性には小紋の着物、男性には浴衣を着ていただきました。

着付けが始まると、お隣同志で「あなたのその着物の色、素敵ね。よくお似合いよ！どこからいらしたの？」などと、たちまち国際交流が始まって、まさに people to people exchange!!

コロナが落ち着いた頃から、感染予防対策をしながら、活動再開に

向けて着付けの練習をしていたお蔭で、何とか予定の時間内に着せて差し上げる事ができ、皆一安心。

メイン会場へ移動し、司会のトークで明るい雰囲気になり上がった中、着物班のプレゼンテーションが始まりました。

今回はメンバー全員がそれぞれの好みの着物を着て、着物の説明を行いました。

原稿をうちわに貼って堂々と紹介できたからか、「伝統的かつ素敵な着物が見られてとても良かった、そして良く理解できた。」とお礼の言葉を頂き、一同大喜び！

着付けメンバーの中には初参加もいらしたのですが、どの方も素敵に着こなし、「旅館の女将や大女将の会合のよう！」とのお褒めの言葉があったとか、なかったとか（笑）



「着物の着方とは…」と外国のお客さんを前に全員で外国人に説明

「もう少し、参加者がゆっくりできる時間があってもと思いますが、どの方も着物を着て日本文化を体験していただいた事は貴重な思い出となる事でしょうし、こういった交流をこれからも続けていくことは大事ね。」と久しぶりのワークショップを無事に終えた後の皆さんの感想でした。

ゲストの皆さまが着物を楽しんで着ていただく事ができて良かったです。あの明るい色が本当によくお似合いでしたね。

今後ともお稽古に励んで、次回もゲストの喜ばれるお顔、言葉に触れられます様に、着付けグループ一丸となって頑張ります！

## 遊び班

### けん玉・おはじき・英語カルタ・紙飛行機



記念撮影が終わると共に「遊び」の時間が始まりました。今回は、けん玉・おはじき・英語カルタ・紙飛行機の遊びを用意。参加者はそれぞれに興味のある遊びのテーブルへ。

けん玉のグループでは担当者が「膝を柔らかく使うのがコツ」とお手本を示していました。高校生が華麗な技をご披露の一方で、なかなか上手いかない人も。でも繰り返し TRY してやっとできた時は拍手～でした。その嬉しさはご本人だけでなく、応援の人も担当者もニコニコに。

けん玉(上)と折り紙(下)。幼い子供が興味深そうに見入っていました



おはじきとは静かな遊びだからでしょうか、しんと集中しておはじきを当てている姿が、賑やかな会場で印象的でした。ゲストの母娘のお二人をはじめ、参加者は繰り返し小さなおはじきを弾いて楽しんでいました。

今回の英語カルタは『茨木郷土かるた』。ゲストが何人もカルタに興味を持ちその場を離れずに遊んで

くださったので「驚いた！」とは担当者の弁。絵札を取って大きな歓声上がるたびに、カルタグループの周りの空気がどんどん濃く熱くなっていきました。「茨木市の事を知ることができて良かった」とのゲストの感想は、準備を重ねたカルタ担当者には何より嬉しいものでした。



ゲストたちにも人気だった茨木郷土カルタ

紙飛行機には、女性会員が多く参加して折り方から学んでいました。我々が子どもの頃、紙飛行機は男子の遊びだったので、50年以上前に女子だった参加者には新鮮だったのかもしれませんが。作った後に飛ばしてみると、遠くに飛ばすことが結構難しい。でも不思議なことに、3歳の女の子がなんとも上手にだった何回もふわりふわりと遠くまで飛ばしていました。何事も力を抜くのが肝心!?

最後にゲストの皆さんが一行に並んで一斉に紙飛行機（へそヒコーキとイカヒコーキ）を飛ばし=写真下=、その後会場は大きな拍手に包まれて「遊び」の時間が終了。最初はもじもじ恥ずかしそうにしていたゲストの子どもさんたちも、遊びだしたら生き生きと元気な様子に変わりました。改めて「遊び」の力を知り、「遊び」は万国共通語だと実感したひと時でした。



以上